

令和8年度 第1回府中市環境保全活動センター検討調整会 議事録

■日 時：令和8年4月20日（月）午後2時～4時

■場 所：第2庁舎6階小打合せ室

■出 席：（敬称略）

（委員）（5名）浅田 多津子、室 英治、西尾 克人、杉村 康之、
藤間 利明

（事務局）（4名）関田 和馬、鈴木 貴博、熊谷 一茂、青木 大地

■欠 席：（敬称略）

（委員）（1名）石川 伊智郎

■議 事

1. 報告

① 令和7年度 第12回検討調整会議事録・・・

- ・（事務局：青木）事前にメールで送付した議事録案について、浅田委員より1件訂正の指摘があり、7ページ目の二酸化炭素濃度計に関する最後の文を削除した旨報告。その他、議事録の内容について概要を説明した。
- ・（藤間委員）議事録4ページ目の稲城の里山に関して補足の説明。パルシステムの担当者と電話やメールで10回程度やり取りをしたが、30人から40人規模でバスにより見学するという条件もあり、パルシステムと稲城の里山を管理している団体との調整がうまく進まなかった。また相手方からの応答も月1回程度で、調整が難しかった。今年の3月初め頃からコンタクトを取り始めており、数人であればいつでも来てよいという話は得ているが、大人数の場合は別途調整が必要である。令和8年度は見送るが、令和9年度以降に里山見学を行う場合には、今回できたつながりを活用して再度コンタクトを取りたい。
- ・（西尾委員）小中学校向けの広報媒体としてスマート連絡の継続利用が難しくなっている件について、場合によっては自身から各校長宛に情報を流すことができるかもしれない。教育総務課にも確認だが、大事なお知らせであれば可能と思われる。また、前回話題に上がった二酸化炭素濃度計について、学内にあることが判明した。

② 活動センター事業について・・・

- ・（事務局：青木）令和8年度活動センター事業の予定について説明。

かんきょう塾第1回については、今後具体的な見学ルート等について、講師の住崎氏と調整しながら進めていく。開催は5月16日（土）の午前9時30分から午後2時30分までを予定しており、午前11時頃までは第2庁舎3階会議室で開講式と座学を行い、その後に多摩市の「なな山緑

地」へバスで移動する。里山を見学する際に枯れた枝が落ちてくる可能性があるため、住崎氏ご協力のもと、多摩市のグリーンボランティア事務局からヘルメットを借りられることになった。20名分までであるため、参加者を2グループに分ける予定である。片方のグループが見学している間、もう片方は昼食を取るなどして待機し、その後入れ替える。最後に意見交換会のような形でまとめることを想定している。

6月の環境月間イベントとして開催する市民環境セミナーは、6月20日（土）午後2時から4時の日時で決定している。講師の田中准教授と調整を進めており、土壌の働き等について講演してもらう予定。申込不要の当日受付制であり、5月15日号の広報ふちゅうにて周知を開始する。

かんきょう塾第2回について、講師である農工大サークルC e tの宮崎氏より、講座テーマについて連絡があり、「体験型のワークショップ」として、「教えてみよう環境問題：プラスチック問題に着目して」に決定した。

毎年恒例の打ち水イベントは、7月24日（金）開催に決定した。翌日の7月25日（土）、8月1日（土）には府中かんきょう市民の会主催の自然観察たんけん隊（市委託事業）が開催される予定である。

かんきょう塾第3回について、サポーターの表氏ご協力のもと、NPO法人クリーンオーシャンアンサンブル副理事長の安井氏に依頼することとなった。安井氏はJICA青年海外協力隊で活動した実績を持ち、現在も日本で環境系NPO法人の副理事長を務めている。海外での経験及び現在の日本での経験を踏まえた講演を予定している。テーマは今後調整する。

8月の夏休み親子かんきょう塾については、大型バスのみ仮押さえしている状況。山梨県の湧水など、昨年度好評だった内容を参考にしつつ、別の場所も含めて検討している。候補地の提案等あればお知らせ願いたい。

かんきょう塾第4回の講師は農工大の澤准教授であり、藤間委員から紹介を受けた環境審議会委員でもある。農工大キャンパス内の畑を実際に見学することでより理解が深まることから、会場は農工大府中キャンパスを予定。内容は「環境負荷低減の農業」を大枠として依頼しているが、検討調整会の委員とも相談し、今後打合せの機会を設ける予定である。

かんきょう塾第5回以降については調整中である。第5回は、東京都の埋立処分場を船で見学するバス見学を予定しており、杉村委員及びサポーターの本森氏に協力いただいている。第6回については、南極・北極の話、または近隣市の市民環境活動に関する内容を候補としている。かんきょう塾ネットとも相談し、まずは南極・北極の話を第1希望として講師へ打診する予定である。最終回である第7回については、12月開催を予定している。協働共創促進事業で実施するワークショップの成果物を、市民向けに発表する機会として位置付けたい。グループワークの発表とワークショ

ップ成果物の発表を二本立てで実施できればよいと考えている。

- ・(藤間委員) 第1回かんきょう塾で多摩の里山を見学することに関連して、特別緑地保全地区についてお伝えしたい。多摩で見学する場所は特別緑地保全地区であり、東京都全体では56か所、23区で20か所、多摩地域で36か所あり。面積で言うと全体で約323ヘクタール、23区で約87ヘクタール、多摩地域で約236ヘクタールとなる。稲城市や多摩市には指定地があるが、府中市には特別緑地保全地区の指定がない。土地の確保など難しい面はあるが、特別緑地保全地区の指定を政策的に進め、ぜひ緑を守る取組に協力してほしい。特別緑地保全地区に指定されると規制がかかり、土地利用に制約が生じるため、民有地では難しい面がある。多くは国や市が所有する土地について指定されることが多く、売却時には自治体が買い取る仕組みもあるとの補足。
- ・(西尾委員) かんきょう塾のグループ活動の実施方法について確認したい。
- ・(事務局：青木) かんきょう塾ネットの月例会で意見を整理した結果、今年度はグループ活動を任意参加とする方向でまとまった。第1回はバス見学であるため、グループ活動の説明や実施は難しいが、申込み時に環境基本計画の分類に基づく興味分野をアンケートで回答してもらう予定である。その結果を踏まえ、第2回以降のグループ活動の実施に反映させたい。
- ・(藤間委員) 補足として、昨年度のかんきょう塾ではAからFまでのチームがあり、そのうち1チームは活動が十分に進まなかったという経緯がある。一方、グループ活動には、調べる楽しさや参加者同士の親密な関係づくりといったメリットがある。かんきょう塾ネットとしては、昨年度のように原則参加とせず、講座を中心に聞いてもらい、希望者が残り時間等で活動する形がよいとの意見でまとまった。
- ・(浅田委員) 初めて参加する人には「グループワークとは何か」が分からないため、任意であっても、できることや活動のイメージを最初に説明してもらえるのか。
- ・(藤間委員) 第1回はバス見学のため難しいが、第2回で説明予定である。
- ・(事務局：青木) 一覧表右上の日付が「令和7年4月1日」のままとなっているが、正しくは「令和8年4月20日」であるため修正願いたい。

③ その他・・・無し

2. 議事

①市民協働・共創促進事業について・・・

- ・(事務局：青木) 3月末までに提案があった団体は府中市市民活動支援センターの1団体のみであったため、今後は同団体と審査会に向けた調整を進

めることとなった。4月6日（月）に協働共創推進課、事業者、当課の三者で2回目の打合せを行っており、その結果を踏まえて提案資料の内容を一部修正し、本日配布している。実施時期は令和8年6月から令和9年1月までであり、ワークショップは計3回実施する予定である。5月26日（火）に審査会があり、6月初め頃に採択結果が出る見込みである。採択後の実施となるためワークショップの6月開催は難しく、第1回は7月を予定している。事業者からは7月11日（土）を希望する意向が示されているが、確定ではない。ワークショップ第1回では、市民に参加してもらい、環境保全活動センターの課題点、今後実施したい事業アイデア、実施に必要なリソースなどを出し合う。日本環境教育研究所の朝岡教授、府中市市民活動センタープラッツの林館長、NPO法人エンツリー関係者などが関わり、助言を踏まえながら意見を整理する。第2回は9月頃を予定しており、第1回で出された意見を整理した上で、不足しているアイデアをさらに出し合い、体系化や優先順位付けを行う。なお、第3回（最終回）は11月頃を予定している。10月11日（日）の環境まつりでは、センターの活動紹介ブースにて、今回のワークショップで得られた意見や経過を公表し、来場者にシールを貼ってもらうなどして参加意向やアイデアを集める予定である。11月末の市民協働まつりでも、同様の意見聴取ができればよいと考えている。最終的には、センターのあり方を整理していくことを目標とし、当課が所管する環境セミナー等において、作成した事業案やスケジュール案などを経過含めて市民向けに公開したいと考えている。また、ワークショップで出された市民の意見については、内容を整理し、ホームページや報告会などで市民へ共有する予定。これにより、参加した市民が自分の意見がどのようにセンターの取組に反映されたかを確認でき、継続的な参加意欲につながるのではないかと考える。協働共創推進課からは、ワークショップにより市民にどのようなメリットがあり、どのような還元があるのかを具体的に示す必要があるとの意見があった。このため、ワークショップ参加者数、今後センター活動への参加意向を示した市民の割合、ワークショップ終了後にサポーター登録等を行った市民数、参加者満足度、今後センター事業にもっと関わりたいと回答した人の割合などをアンケート等により集計し、成果として見える形にする予定である。また、ワークショップを開催するうえでの役割分担についてだが、基本的に企画立案は事業者が担い、当課は細かな調整や補助的な部分、他団体とのつなぎ役等を担う形である。広報については、チラシ等は事業者側で作成してもらい、当課が市の広報媒体を活用して周知する。参加者情報については当課が取りまとめ、団体と共有する。そして、ワークショップ当日の資料作成やファシリテーションは団体側が担い、当課は資料印刷や備品手配な

どを行う。ワークショップの参加対象者として、子育て世代、特に小さい子どもを連れた親世代が重要であると事業者側から意見が示されたため、子ども連れでも参加しやすいよう、託児サービスをきちんと整える必要がある。費用面や手続面を踏まえ、現実的な方法を探している。会場については、第2庁舎3回会議室を第一候補として、市民活動センタープラッツの会議室も視野に入れている。4月末までには提案資料一式の内容を固め、協働共創推進課へ提出する必要があるため、現時点で意見や質問があればいただきたい。

- ・(室委員) 事業者の所在地や法人の性格、得意分野について確認したい。
- ・(事務局：青木) 当市に拠点のあるNPO法人であり、「まちづくりカフェ」という市民向けのワークショップに実績がある。市民が市のまちづくりについて気軽に意見を出し合う場をつくることを強みとしている。
- ・(浅田委員) 対象者について、中高生や大学生など次世代と一緒に話し合うことを明確に示した方がよいのではないか。特に、託児を設けて親子連れを意識するのであれば、対象者をもう少し具体的に明記したほうがよい。また審査会の採択結果が発表されてから第1回のワークショップまで期間が短い、広報はどのように行うのか。
- ・(事務局：青木) 採択前に仮原稿を作成し、採択結果が出た後の校正段階で必要な情報を盛り込む想定である。メールやLINE配信については、2週間程度あれば配信可能であるため、対応できる見込みである。
- ・(藤間委員) 審査会では事業者と市側の意思疎通ができていないか、役割分担が明確かについて必ず質問が出るため、事業者側と市側で十分に確認しておく必要があるとの指摘があった。プレゼンの場で「違う」というような齟齬が出ないように、双方が納得した上で進めてほしい。令和8年度の市民協働共創促進事業で市民から多くの情報が得られるとしても、それを組み立て、実際にセンターをどのようにしていくかについては、さらに検討が必要である。令和9年度には、随意契約の範囲で追加的に契約を結び、令和8年度の成果を基に、詳細な構想に向けた具体的計画を作成してもらう必要があるのではないか。令和10年度に本格的に始めるのであれば、令和9年度中にそのための材料を作る必要がある。令和10年度にどの程度の子算規模を想定するのも考えておかなければならない。
- ・(事務局：熊谷) 令和9年度予算を取ることは、成果物が出る時期との関係で難しい面がある。現時点では、令和8年度のワークショップ成果を踏まえ、令和9年度にも協働共創促進事業を別内容で活用し、仮に委託や支援を試行することも一案であると考えている。
- ・(藤間委員) 再度100万円規模の協働共創促進事業を活用するだけでは、踏み込んだものを作るのは難しいのではないか。令和9年度には、随意契

約で予算を確保し、令和10年度の予算要求につながる具体的なデータ・人数配置・運営方法などを作ってもらえるのではないか。

- ・(浅田委員) 令和9年度にも協働共創促進事業を活用する場合、どのようなものをイメージしているのか。
- ・(事務局：熊谷) まずは、事務局が担っている業務の内容を知ってもらうことが重要である。予算の範囲内にはなるが、センター事業の企画立案と一緒に考えてもらうイメージである。
- ・(杉村委員) 令和9年度予算獲得に向けて、9月頃までにワークショップの中間成果物をまとめてもらえないか。
- ・(室委員) 発注仕様書を誰が作るのかが大きな問題である。委託先に全て任せるのか、環境政策課がきちんとスペックを作り、それを説明した上で発注するのかを整理しておかないと危険である。府中市の環境がどうあるべきか、市民の意見をどう集約し、環境政策課がどのように仕様に落とし込むのかが重要である。
- ・(事務局：熊谷) 今回の成果物として、今後の事業提案書まで作成してもらう予定である。市としては、協働共創促進事業の利用にあたり、センターをどのようにしたいかという理想やニーズを示している。それを基に、市民意見を聞き、どのような支援や事業が求められているかを集約し、新しいセンターのあり方を提案してもらう想定である。
- ・(室委員) 現在事業一覧表に示されているものだけでも、きちんと履行されており、立派なセンター活動である。今後は、これをさらに充実させるために、事業者の力がどう反映されるのかが見えるようにしてほしい。

② その他・・・無し

3. その他・・・

次回開催は、5月19日(火)午後2時～おもや会議室A302で仮決定。
第3回以降も第3週の火曜日午後を基本に仮決定していくことが確認された。